

神津島海釣り大会速報

高木 惣治

予科10-8

航空12-1

(東松山市)

神津島温泉保養
センターで寛ぐ



同期生と共にした伊豆七島での釣り大会は利島でH6年、H11年、H17年、H19年と4回行ってきた。その後、私は軽い脳梗塞に襲われ、釣り大会も自然と中断されてきた。私の脳梗塞もほとんど快癒したので、埼玉60の3月の世話人会で川島君から釣り大会の再開を呼びかけられた。

今までは利島で行ってきたが連絡船の接岸率が低く往復の船便で苦労したので、今年は安心して船で往復できる神津島にした。川島君は早速常連にFAXしたが、寄る年波のせいかな断る人が多く、最終的には川島、寺内、鈴木(芳)、私の4人に加えて佐渡で釣りの腕を磨いた田村君、それに友情参加の岡本君の6人と決まった。ネットに詳しい川島君の努力で往復のジェット船の乗船券は予め手に入れることができた。

H23年7月31日(日) 晴れ

朝7時に東京竹芝桟橋に集合。7時50分発神津島行のジェット船に乗り、大島経由で10時20分無事神津島の前浜桟橋に接岸した。大勢の出迎えの中に昨夜電話しておいたフミニイ(石田文夫:昔の仕事仲間、現島の顔役)を探したが見あたらず、

少しがっかりしたが、民宿大松の若い嫁さんの車を見つけ、やがて遅れてきた女将さんの車に分乗して宿に到着した。

午後は皆で漁場の確認のため桟橋を歩き、帰りにラーメン屋で大魚の前祝いの乾杯。その後、何人かは島の名所を散策したようだ。私は、宿の帰り皆の釣り竿や仕掛けの準備をしていた。夕方皆で前浜の桟橋に行き試し釣りをしたが、川島君が小アジ2匹をヒットしただけで第1日目は終わった。

8月1日(月) 晴れ

全員4時起きて前浜桟橋に行ったが早くも満員、風も強く竿を出す場所もなく引き上げ、島の反対側の多幸湾に向かう。20年以來の路で初めは不安であったが、段々記憶も蘇ってきた路は広く舗装も立派で昔よりずっと走りよくなっていた。多幸湾の桟橋も倍の広さに拡張されていた。此処は苦い思い出がある。

数十年前の嵐の次の日無理をして釣りに来た。仕掛けの準備中大きなヨタ波に襲われた。波が堤防を30cmも高く乗り越えた。私は車の中に居て助かったが1人は波にさらわれ海に落ちた。兎に角消防に助けを求めるしかない。向こう側にある公衆電話迄走って行き119番して“今多幸湾で1人波にさらわれ海に落ちた、助けてくれと。”と。“こんな日に釣りなど行く馬鹿があるか、嵐で船は皆陸に上がっているので直ぐ出られる船はない。兎に角海に浮いているように”と指示された。2時間ほどして消防団員4人が船を出して助け上げてくれた。その間有線でこのことが島中に放送され、穴があったら入りたい気持ちだった。

昔の話を思い出しながら感無量、ようやく竿を出す気になった。私は桟橋の左側で5分程して10cm程のシマアジを1つ釣り上げた。さすがと皆から褒められた。田

村君は棧橋の右側でカワハギを初めシマアジを沢山釣り上げたようだ。

帰り路、後から来た車が私の前に出て止まった。何かと思ったら吉左丸の良和君（関良和：昔の釣りの世話人、現吉左丸船長）だ。私を捜していたらしい。10年も会っていないのに良く私の顔を覚えていたものだと言った。船の器材置き場にしまっておいたエビコマセ20kgを私たちにくれた。昼はフミニイがバーベキューをご馳走してくれるので、宿に11時頃私が迎えに行くから待っていてくれと言われて分かれた。

良和君の車に3人乗せてもらい私の車に3人乗って途中で飲み物を仕入れ山路を10分程ひた走り海辺に出た。

長浜のドンタク広場ではバーベキューの設備が整っていた。フミニイは黒むつの姿作りの最中だ。彼の友達の一人はタカベの塩焼きを完成。珍しい貝を盛んに焼いている。黒むつ、タカベ、赤いかの刺身も出来上がり大きな皿に盛られて並べられた。みんな珍しくおいしい料理だ。ビールを始め島の焼酎にも氷が用意され真夏の昼のバーベキューに皆舌つつみを打った。貝も焼きあがった。名前は陣笠となるみ貝（別名おさだ貝）と教えてくれた。村の祭りの準備で忙しい2人とは宴酣にして別れ、良和君は温泉保養センターまで案内してくれた。しばらく振りの温泉でゆっくり旅の疲れを癒した。

宿に帰り夕食後、岡本君が上着を忘れてきたのに気が付いた。岡本君は一人で車で探しに行くといい出し、二種免を持っているから大丈夫だと言って出掛けた。少し心配だったが私も酒を飲んでいたのでまかせた。岡本君は暫くして温泉に有ったと言って帰ってきた。一件落着。

8月2日（火） 明け方大雨、後晴れ

朝5時過ぎ皆で岡本君の運転で多幸湾へ。昨夜の運転で自信がついたらしい。棧橋の根元では小あじが入れ食い状態。寺内君も初めて魚の顔を見たようだ。

今日は10時に車を使いたいと宿の女将さんに言われ、岡本君が車を返しに行くことになった。ついでに渡船場まで、お客を迎えに行つてほしいと頼まれ、大松の旗を持って車でお客さんを迎えに行った。無事任務を果たし昼近く多幸湾に帰ってきた。工学博士の国立大の学長さんの運転手に宿まで案内してもらったなどお客さんの誰も気が付かなかったろう。昼はスーパーでおむすびやビール、かき氷等を買って求め浜辺の東屋で乾杯。

2時頃宿に帰る。寺内君は今日の3時のジェット船で帰るといふので、田村君、岡本君と私の3人で棧橋まで見送った。沖には今朝7時に着いたという大型客船飛鳥Ⅱの巨体が浮いていた。

7時から前浜海岸での花火大会。飛鳥Ⅱもこの花火大会を見に来たのであろう。満艦飾の飛鳥をバックに鄙にはすぎた立派な花火だった。見物人が少なくもったいない位の幕切れであった。

8月3日（水） 晴れ

4時頃目が覚めた。鈴木君はもういない。ドシャブリの中帰ってきた。前浜棧橋は波が乗っていて釣りはだめ。多幸湾に行くことにした。岡本君は寝不足のため不参加。

多幸湾の例の棧橋の根元で小アジが入れ食い。鈴木君は6本針に6匹の一荷釣り。小物でも此の位釣れば満足だろう。

朝食後、赤崎遊歩道方向の終点のトンネルまでドライブ。皆は2つ目の暗黒の大黒根トンネルを歩いて向こう側に行ったようだが私は一人残って右側の遭難碑の由来を見た。平成18年10月8日この沖で遭難した地元漁船の慰霊碑で31歳から56歳まで6人の名前が刻まれていた。傍に白衣

の観音様が立ち、綺麗な花が手向けられ線香が煙っていた。合掌。川島君は島の名産黒曜石を見つけて大事そうに持っていた。

帰り道、名組湾の岩礁の上に張り巡らされた木製の階段よりなる赤崎遊歩道に立ち寄る。所々に展望台が作られている。

昼は前浜に1軒という日本そばに行く。味もよいが値段も又よかった。

昼過ぎ波が治まり、全員で前浜棧橋先端に行く。地元の人がカンパチを釣り上げていた。その内岡本君のサビキに60cm程のカンパチがかかった。島の人にタモ網を頼んで手伝ってもらったが、サビキ針がタモ網に絡み魚を入れることが出来ず、とうとう逃がしてしまった。本当に残念だった。あれ1枚あげれば他のものは何もいらぬ。末代までの語り草になっただろう。その後、岡本君はむろあじを2枚ゲット。続いて田村君は大きなむろあじを2枚釣り上げた。今日の釣りはこれで手じまい。夕食後、岡本君の運転で温泉に行く。帰りぎわ太平洋に沈む夕日を拝むことが出来た。

夜7時より宿でフミニイと良和の謝恩会を開いた。大した料理はないが話は弾みビール、焼酎も効いて盛り上がり、フミニイは百kgの巨体から昔覚えた埼玉の民謡秩父音頭を唄い懐かしんだ。「こんな女に誰がした」は川島君と一緒に、更に蟹工船を歌い上げ2人は喜んで帰って行った。

8月4日(木) 晴れ

5時過ぎ全員多幸湾へ。始めは棧橋の先端で竿を出す釣果ない。川島君一人先端に残し、皆いつもの棧橋の付け根に陣取る。昨日ほどではないが今日もそこそこ出る。そんな中、先端で頑張っていた川島君が40cm程のシマアジ2枚を引き上げる。大物というより貴重品に近い。これで島に来た甲斐があったろう。コマセも底をつき竿を納め、宿に凱旋。

帰り支度だ。川島君に宿の清算と、土産物の干物の注文の仲介を頼む。手に余る荷物はそれぞれ小包便にして宿の女将さんに依頼。2時40分頃2台の車で港に送ってもらう。乗船券に署名して棧橋へ。ジェット船は3時15分出航。今日も利島には寄港せず、大島経由で明るいうち6時半竹芝棧橋に着いた。

皆も十分釣りを堪能し、怪我もなく病人も出ず、予定通り帰りつけたのは何よりでした。



②初体験

岡本 祥一

予科5-7
航空16-4
(川口市)

トンネルを抜
けるとそこは
海に落ち込む
絶壁であった



「海釣りに行かないか」。川島君のお誘いである。海での釣りは今までに全く経験がない。この年にしての初体験となる。行く先は神津島。「是非おねがいします」と即答した。

高木君の池袋別邸での事前打ち合わせ2回。総勢6名。船便、民宿予約、行事予定等の計画は川島君が全て取り仕切り、準備完了。こちらは「おんぶにだっこ」である。打ち合わせと言ってもおしゃべりと酒盛りでとにかく楽しい。

7月31日 竹芝8時発1日1便のジェット便。東京都心から178km、最高時速77km、約3時間で島に到着。

神津島の中心は572mの天上山、1200年前に噴火した流紋岩質の火山である。特に多幸湾から見上げる広大な斜面は噴出した薄いオレンジ色の軽石で覆われており、陽に映えて見事である。島のところどころに黒曜石が産出し、縄文時代から本土に送られた歴史があるそうである。3千年以上の昔、どんな舟で黒潮の荒波をこえたのか。古代日本人の活力に感動を覚えた。本島には当然温泉も湧きだしており、立派な保養センターが設置されている、

8月1日 早朝4時全員前浜埠頭に出漁。小生の釣竿そして仕掛けは高木君が全て準備。ここでも“おんぶにだっこ”。たかが小魚、大漁疑いなしと意気込んだが、餌だけ取られ釣果ゼロ。コマセの周りには大きな“馬面カワハギ”が群がってくる。ところが針には一向にかからない。人間と魚の知恵比べである。

昼食はバーベキュー。大きな黒ムツのさしみ、たかべや赤いかの刺身を中心に新鮮な魚や貝を焼きながらの会食であった。刺身だけで満腹。すごく美味しかった。これも初体験。高木君の知人フミニイ（石田さん）や島の世話役である関さんなどが昔お世話になったお礼の一端とのことで昼食会

を設定、我々はお相伴にあずかった次第である。仲間を愛し仲間に慕われる高木君の優れた人格に改めて感心したことであった。帰途温泉保養センターで温泉に浸る。食塩泉、広い野外風呂もある。ここで大失敗。ジャンパーを置き忘れたのである。夕食の最中思い出し、急ぎよボロ車を運転して取りに戻った。ヤレヤレ

8月2日 大雨のため5時の出漁中止。朝食後宿のオンボロカーで多幸湾に向かう。釣竿を入れた途端入れ食い。しまあじの子数匹。その直後針が絡まってしまった。お祭り解消に必至の努力も実らず、焦りが続く。結局鈴木君の指示でハサミを借りて新しいサビキに交換。時すでに遅くその後釣果はゼロ。残念。

宿からの連絡で、10時着の客を埠頭でピックアップして欲しいとのこと。一人車を運転して埠頭に向かう。頭上に宿の幟をかかげて待つ。子連れの客を満載して宿に向かう。宿屋の番頭の身代わりも初体験であった。

再び多幸湾に向かう。コンビニで仕入れたお弁当で昼食。その後は全員釣果無し。民宿に戻り、寺内君を埠頭に見送る。夕方、近くの「物忌奈命神社」のお祭りで「カツオ釣りの神事」があるとのことで出かける。竹笹を組み合わせて舟の形を作り、はだしの若者数人が中に入って威勢の良い掛け声と共に境内を駆け巡る。張り子のカツオを釣り上げる所作が始まると同時に木陰に隠れていた役員が小銭、お菓子などを大量にばら撒く。子供たちがわれがちに飛び出してそれを奪い合うのである。取り損ねた幼い女の子が泣き出す。そばにいた男の子が優しく慰め、捨てたお菓子を女の子の手に握らせる。泣き止んだ女の子の嬉しそうなお顔。微笑ましい風景に心が和む。ひと時の争奪戦が終わり境内は静けさを取り戻す。質素で素朴な神津島のお祭りであった。

薄暮に至り、花火大会。5～8号が中心で1発だけ尺玉、最後は華やかなスターマインで8時に終了。

8月3日 早朝5時起床。小生は眠気が去らず寝床に再び潜り込む。

午前赤崎遊歩道を目指して出発。民宿のボロレンタカーを運転。クラッチ式は何十年ぶりか。赤崎の先、数百米に大きなトンネルがあり、入口に車乗り入れ禁止の立て札。暗がりを書くこと数分、トンネル出口から先は歩道もなく、急な崖が海岸沿いに続いており、ここから引き返す。こんな立派なトンネルを作ってもったいない。一周道路建設をここで断念したのであろう。



赤崎遊歩道にて鈴木

赤崎遊歩道は奇岩、怪石が連なる海岸に沿って、木組みの遊歩道が作られている。

展望台から見渡せる丸みを帯びた水平線。うねりを伴った大波が目の下で豪快に波しぶきを上げていた。内側の小さな湾内がダイビングスポット。今日は海が荒れて遊泳禁止。

午後、前浜埠頭突端に出漁。突然非常に強い引きがあり、釣竿を持って行かれそうになった。あわててリールを巻く。重い。そばにいた田村君が竿を立てると叫ぶ。思う通りに行かない。大物らしい。タモ網を持った人が助けに来てくれた。魚を手練り寄せ、網の入り口まで魚を寄せることは出

来たが、掬いあげることはできない。小生は茫然と見ているだけである。暴れる魚に苦闘数分。瞬間魚影が消えた。残念。

タモ網にはサビキ針四本が巻きついてた。このため魚が網に入らないのだと言う。あの強い手ごたえは、もちろん初体験。忘れられない。高木君によればカンパチの大物とのことであった。逃がした魚は大きい。もう一度挑戦したい。海釣りに凝りそうな予感がしている。

神津島での最後の夕食。先日昼食会でお世話になったフミニイと関さんに来ていただき歓談。飲むほどに、酔うほどに興は尽きず、高木君とフミニイは完全に意気投合、アカペラのカラオケが始まる。お二人を結びつけている太い絆そして暖かい人情が強い印象として残っている。再会を約して解散。

8月4日 多幸湾に5時出漁。竿を入れて直後入れ食い。魚を針から外すのに手間取る。小アジ10匹程釣ったが、その後当たり無し。朝食後帰宅準備。夕方6時過ぎ竹芝棧橋着。解散。

4泊5日の合宿。海釣りそして大物釣り、宿の番頭などの初体験。川島君、高木君には「おんぶにだっこ」、何から何までお世話になった。鈴木君そして田村君にもいろいろ教えていただきお世話になった。本当に楽しかった。心から感謝申し上げます。有難うございました。

①朝起きは三文の得か

鈴木 芳雄

予科 25-6
航空 1-2、
八千代市)

この直前6本のサビキ針に6匹のアジを釣り上げた。カメラが間に合わず、次の3匹釣り上げたシーンを寫す



朝起きは三文の徳か、得か。辞書では「徳」が多いが、最近のネット上では「得」という使い方が多いようである。そこらの議論はさておいて、川島君から今回の旅行の所感を全員書くようにとの要請があったので、“朝起きは三文の得か”の視点で駄文を書くことにした。

○1日目（7月31日）は、4時前の地震で目が覚め、そのまま起床。5時45分の八千代台発の電車に乗り、竹芝へ、そこで皆と合流、神津島へ。

○2日目（8月1日）は、4時頃起床、島の西側にある前浜の棧橋へ全員で出かける。しかし風が強く釣りにならず、一寸釣った後民宿に戻る。川島・田村の諸兄は少し釣ったが、小生は釣果ゼロ。

○3日目（8月2日）は、4時半に目が覚める。夜は雨が降っていたが起床した時は止んでいたため独りで前浜の棧橋へ出かける。今回の釣りで初めて小さな鯆を3尾程釣ったところで、雨が降り出したが合羽を着て暫く釣りを続けた。しかし、降りが段々強くなってきたので諦めて道具をしまっ

て帰る頃にはますます雨が強くなり、棧橋から民宿まで10数分程かかるが、民宿に着いた時はずぶ濡れになっていた。結局当日は朝食の後、雨が止んだので多幸湾に出かけ、暫く釣りを楽しむことができた。

○4日目（8月3日）は、3時半に目が覚めたので、昨日同様前浜の棧橋へ独りで出かけた所、棧橋の入口には水がたまって先には行けない状態である。雨も降っていないのに何故だろうと暫く考えていた。しかし折角ここまで来たから、靴が濡れるのを覚悟で水溜りの中を歩き始めたところ、突然横から堤防を越えて飛沫が飛んできたのに驚いた。反対の別の堤防からも、飛沫が飛んでいるのが見えたので、これは危ないと思い引き返した次第。民宿に戻ったら全員が起きていて、その状況を知らせたところ、高木君の判断で前浜の東側の多幸湾なら釣れるだろうということになり、5時過ぎに多幸湾へ向け出発。5時半頃から釣りを始めたが入れ食い状態で小鯆が釣れた。

○5日目（8月4日）は、5時頃起床、昨日同様多幸湾へ。5時半頃から釣り始めた。最初はあまり釣れなかったが、場所を変えてからは全員が入れ食い状態になった。

朝起きは三文の得かは、状況次第ということになりそうだ。3日目・4日目は先駆けしようと思ったわけではないが、3日目の4時半起床は雨で駄目。4日目の3時半起床は高波で駄目、「得」にならなかった。「独りで得をしようと思うな」との神様の戒めか。

しかし全体としてはやはり「得」ということになるだろう。毎日早起きで、本当に楽しい思い出に残る5日間を過ごすことができた。これは偏に、高木君のきめ細かな心遣いと同君の知人2人のお世話並びに川島君の周到な準備のお陰と感謝で一杯である。

特に2日目の昼食は、高木君の昔馴染の

お世話で、海岸でのバーベキューとなったが、中々口に入れることのできないクロムツの刺身や珍しい貝等ご馳走になり十二分に満喫した。また最後の夜は知人2人との会食となり、特に仕事関係で高木君にお世話になったという石田君と高木君のデュエットは感動的であった。



高木と昔の仲間フミニイと良和

④神津島で釣三昧

田村 正夫 予科4-6 航空6-4
(富士見市)



多幸湾にて

神津島での海釣りの誘いがあった。喜んで参加することにした。考えてみれば10年程前舟で出て水死体を発見、収容したことがある。あまりいい気持ちでなかった。

それ以来竿を手にしていない。誘いに小躍りして喜んだ、小中学生の修学旅行前のようにうきうきしていた。さて獲物は何を狙うのか、仕掛けはどうかと情報を集めたが少ない。シマアジ、カンパチなど大物を狙うか、アジ、サバなどの小物を釣るのが目的らしい。そのための釣り針、仕掛けを準備し、釣果を夢見るのが釣り人の楽しみである。

7月31日午前神津島到着、前浜の栈橋へ下見に行く。栈橋先端でインターネットにあったとおりカンパチ、シイラなど揚がっている。よし俺もやるぞと心がときめいた。

午後愛用の竿と仕掛け(皆サビキを準備したので合わせた)で釣りはじめたがさっぱり、岸壁近くのコマセにカンパチが寄ってくるが釣れない、この日はぼうず(釣果0)に終わった。あれほど頑張ったのに残念。海釣りやってこんな経験は初めてだ。返す返すも悔しかった。

宿に帰ってから高木君に手ほどき願った。中通しの浮きからサビキまで借用し新しい仕掛けにした。たなは水深3mと教えてもらった。

8月1日朝4時栈橋に向かうが風が強く灯台の明かりの下で仕掛けを準備するが愛用の継竿の継手の接触が不具合で困惑、家での点検、手入れを怠ったのが祟り釣りはできなかった。栈橋を引きあげ多幸湾に向かう。防波堤の先端近くで試したが釣れない。

高木君が小型だがシマアジを釣った。ここは防波堤の中ほどのサラシ場の近く、経験では魚群の集まる場所だ。そのポイントで釣り糸をたらしたら早速あたりがあった、強い引きがりシマアジがかかった、島での初釣果だ。4~5尾釣ったあと、再び強い引きがありさて大物かと思ったらフグだった。隣でもフグが揚っていた。経験に

よるとフグが来ると狙った魚群は散ってしまい、殆ど釣れなくなる。直ぐ右側に移動した。カワハギが幸運にも向こう合わせで釣れた。今日はシマアジの心地よい引きで、釣りを堪能することができた。

2日、朝5時多幸湾へ釣行、小アジが入れ食いになるり20尾くらい釣れた。小アジは日本海側では俺の得意とするところだった。朝夕胴づきのから針で釣れたし、舟でも明るいライトに集まるアジをクーラーにいっぱい揚げたことがある。時代のせいもあろうが、太平洋側のアジは日本海側と違い大勢の釣り人に虐められたせいか仕掛けに工夫を凝らさなければ釣れないらしい。3日は再び5時に多幸湾へ、小アジの入れ食い鈴木君は3荷(1荷は2尾)釣りあげている。シマアジはいったい何処へ行ったのか昨日今日とアジ釣りを楽しんだ。

午後前浜の棧橋へ行く。カンパチが揚がっていた。隣にいた岡本君がカンパチをひっかけた。竿を立てて引き寄せるよう励ます。すぐ近くにいた島の人がタモをもって助勢にきたが、残念なことにバラしてしまった。惜しいことをした。

俺も大物を狙おうと高木君に教えを乞うて、仕掛けなど拝借して挑戦してみた。しかし餌の小えびが柔らかいせいか海面についた瞬間はずれてしまいだめだった。愛用の振り出し竿も整備を怠ったためガイドが外れなど、故障したので釣るのを諦めた。サビキでやり直し最後のコマセをかき集めて投竿したら強い引きがあり、30センチもあるムロアジが釣れた。ムロアジ3尾と小さなメジナ1尾の釣果だった。

4日最後の釣行、小アジが豊漁だった。神津島は誠によいところだった。民情は明るく温かく、親切だった。

この度はたくさんの人達にお世話になり、よい旅だった。高木君には準備のための打ち合わせから、釣りについては懇切なご

指導と、仕掛けまで拝借して、お蔭で釣りを心から堪能できた。また元部下の人達から敬愛されている姿をみて彼の仁徳に感服した。

⑤総評

川島 順

予科21-7 航空7-1 (越谷市)



4年ぶりに再開した海釣り大会

今年は初めての神津島、新しい体験や出会いがあった感動的な4泊5日の釣り三昧の日々であった。

さて、今回の参加者各位の釣りに対する真摯な研究心、小魚一匹に対しても手を抜かない闘魂に対して、次のように表彰したいと思う。

◆名監督賞 高木惣治

朝3時に起きて初心者のための釣り具の調整、コマセ、道具の手配から釣り場への車の運転、現場での釣り方の指導等彼なしではこのような楽しい会は実現出来なかったであろう。

何十年前の仕事仲間から親分と慕われ、島滞在中彼らから色々の便宜とバーベキューの接待を受けたのも、やはり名監督の余徳というものか。

◆釣師の鑑賞 鈴木芳雄

早朝4時頃から独りで釣り場の状況を偵察に行き、釣り場選定の作戦に大いに寄与

する。戦闘帽にポケットの一ぱい付いたベスト、腰には手ぬぐいと7つ道具、大きなクーラーバッグを肩に完全な釣り師スタイル。4日目の多幸湾での3荷釣りは見事であった。

◆ベテラン賞 田村正夫

佐渡島での校長時代培った釣りの腕前は確かなもの。恐らく、釣果数は最多。しかし、佐渡の魚と太平洋の魚では気質が違う。佐渡の方が純真である、と一言。

◆努力賞 寺内 雍人

ほとんどの時間棧橋で絡まった糸を解きほごすのに費やし、それでもめげずその合間に何匹かを釣り上げそれで満足している。漁業資源の保護に貢献する。そこで一句。

東海の神津の島の棧橋で 我一人さびき針の糸とたわむる

督を大いに助けた。これに対して何か賞を差し上げたいがいかが。

◆トップ賞 川島 順

3日の午後以外はおそらく私が最初にヒットしている。しかし、2日目、かなり大物のシマアジを釣り上げ、それを始末している間に、新しく買い求めた釣り竿の先端を折ってしまった。3日目は高木君に拝借した可なり高級の釣り竿の先端を1匹釣り上げた直後折ってしまった。まだまだ未熟者と反省する次第である。



宿の前で寺内

◆残念賞 岡本 祥一

高木君が紹介したように、4日目前浜棧橋で60cm級のカンパチを取り逃がした。これを釣り上げていたら魚拓をとって後世まで自慢できたろうに。

彼の隠れた才能、二種免の腕前で車の運転、島の起伏に富み曲がりくねった道路をオンボロのマニュアル車で乗り切り高木監